

熱中症は気づいた時には重症かも

はじめに:症状が出る前に、早めの対策を

- ・気温30℃以上は要注意！ 帽子・日傘・保冷剤で暑さ対策
- ・室内での発症も増えています。室内ではクーラーをつけましょう。
- ・塩分補給もお忘れなく。1日あたり1.2Lを目安に水分補給。
- ・熱中症警戒アラートを受け取りましょう。下記の二次元コード(環境省)から登録可能。



1. ついてますか？傷害保険の「熱中症特約」

傷害保険の中でも熱中症を補償対象とする保険と、対象外の保険があります。

- ・ **熱中症特約**とは:熱中症による「通院」「入院」「死亡」などを補償対象とするオプションです。
- ・ **確認方法**:保険証券の特約(オプション)欄に熱中症特約と記載されていない傷害保険は熱中症が補償対象外の可能性があります。

2. 例えばこんな場合も・・・

- ・ 外出中に体調不良になり通院。熱中症と診断された。→ 通院保険金をお支払いします。
- ・ ゴルフ中に熱中症で倒れ救急搬送、そのまま入院に。→ 入院保険金をお支払いします。

3. 万が一、熱中症になった時の対処法は？

熱中症と思われるときには、微候(外見)や症状(本人の訴え)に応じた応急手当をしながら、病院へ連れていくか、救急隊の到着を待ちましょう。

【応急手当の例】

- ・ 涼しいところで衣服をゆるめて休ませる。
- ・ アイスパックなどを首筋・脇の下・脚の付け根などに当て冷やす。(※冷やした缶ジュースなどでも代用できます)